

2010年度(2011年3月期)

第2四半期 決算説明会



株式会社エージーピー

2010年12月7日

LEVEL XXI東京會館「シルバールーム」

当社事業の概要

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

2011～2013年度 中期事業計画

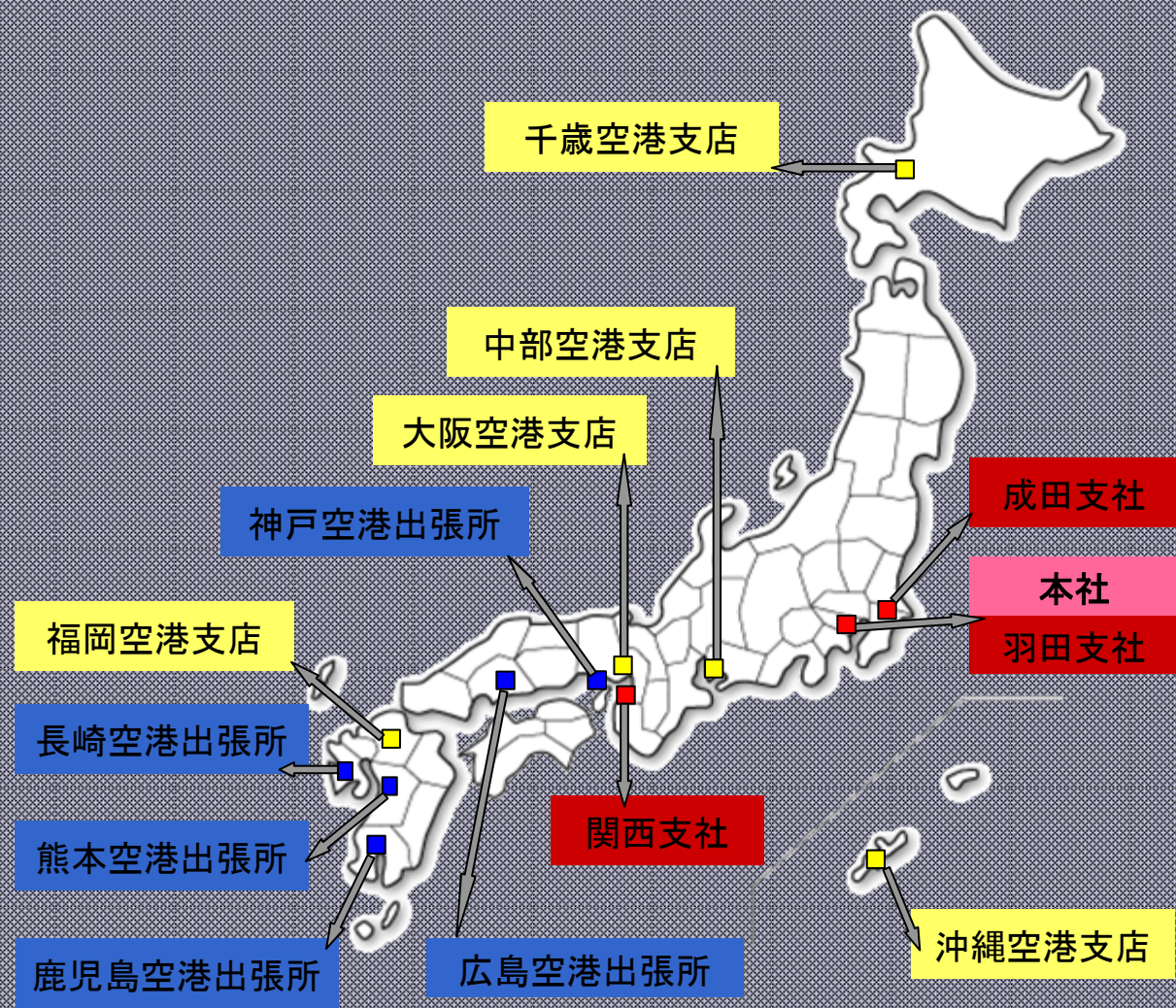
当社発展の軌跡

- '65 設立
- '67 伊丹
- '68 福岡
- '71 千歳
- '78 成田
- '83 羽田
- '92 成田Ⅱ期
新千歳
- '93 羽田西側
- '94 関西
- '99 那覇
- '02 広島
- '04 中部
- '05 神戸
- 鹿児島
- '07 熊本
- '08 長崎

'67 動力事業

'72 整備事業

'85 付帯事業



当社の事業概要

動力事業
(設備投資型)

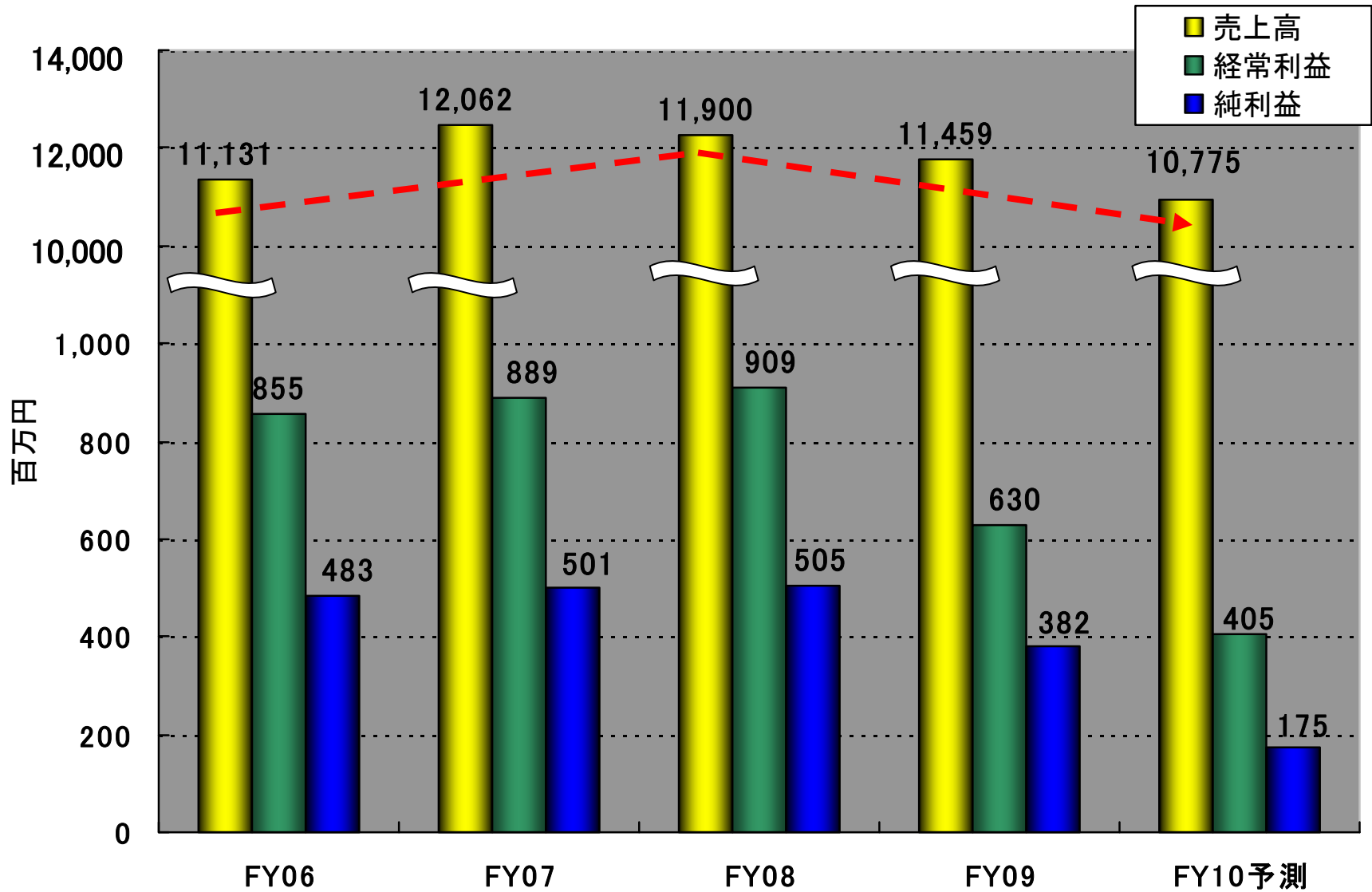
整備事業
(役務提供型)

付帯事業
(メーカー・役務提供型)

前期末(2009年度)セグメント別の売上高・人員等 (単位:百万円、%、人)

| FY09実績 | 売上高 | 売上比率 | 従業員数 | 主な顧客 |
|--------|--------|------|------|----------------|
| 動力事業 | 5,532 | 48.3 | 191 | 航空会社 |
| 整備事業 | 4,743 | 41.4 | 370 | 空港会社・航空会社 |
| 付帯事業 | 1,182 | 10.3 | 85 | 病院・空港会社・航空会社 |
| 合計 | 11,459 | | | 航空関連売上は全体の約93% |

業績の推移(連結)



当社事業の概要

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

2011～2013年度 中期事業計画

2011年3月期 第2四半期累計業績

(単位:百万円)

| | 前期実績 | 当期実績 | 対前期比 増減 | | 当期予算 |
|-----------|-------|-------|---------|--------|-------|
| 売上高 | 5,386 | 5,255 | △130 | 97.6% | 5,418 |
| セグメント利益 | 616 | 581 | △34 | 94.4% | — |
| 販管費 | 379 | 337 | △41 | 89.0% | — |
| 営業利益 | 236 | 243 | 7 | 103.0% | 229 |
| 営業外損益 | ▲25 | ▲27 | △1 | — | — |
| 経常利益 | 211 | 216 | 5 | 102.7% | 201 |
| 特別損益 | ▲4 | ▲23 | △18 | — | — |
| 税引前四半期純利益 | 206 | 193 | △13 | 93.7% | — |
| 四半期純利益 | 98 | 92 | △5 | 94.4% | 100 |

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

セグメント別収支

(単位:百万円)

| | | 売上 | | セグメント利益 | | |
|----|-------|--------|-----|---------|------|--|
| 動力 | 2,687 | 93.6% | 284 | 74.0% | 減収減益 | |
| 整備 | 1,849 | 95.4% | 138 | 105.3% | 減収増益 | |
| 付帯 | 718 | 124.1% | 157 | 159.2% | 増収増益 | |
| 全体 | 5,255 | 97.6% | 581 | 94.4% | 減収減益 | |

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

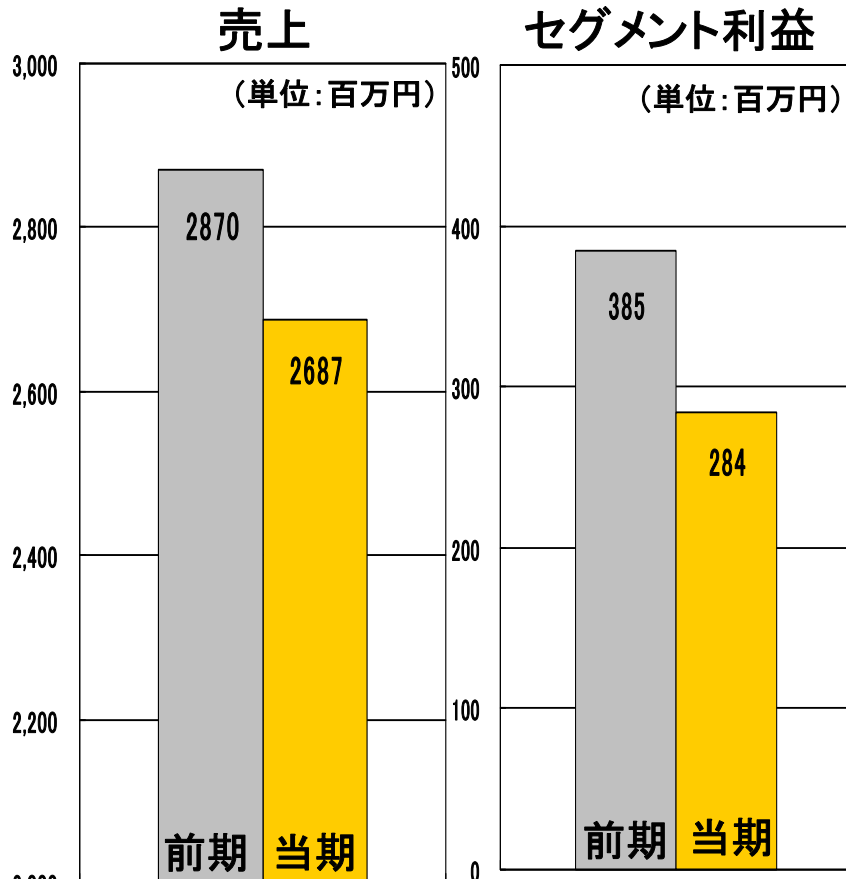
①動力事業 収支

売上

2,687 百万円 前期比 △182

セグメント利益

284 百万円 前期比 △100



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

<売上>

減要因

- ①航空機の小型化
- ②JAL国内線路線の縮小・減便

支店別

羽田 △109, 成田 △36, 関西 △12

※成田滑走路の延伸に伴い、期待していた就航便数拡大は伸び悩み

増要因

- ①スカイマーク、5月から全便使用

<費用>

- ①整備維持費の減 △40
- ②労務費・委託役務費の減 △29
- ③原材料費の減 △10

②整備事業 収支

売上

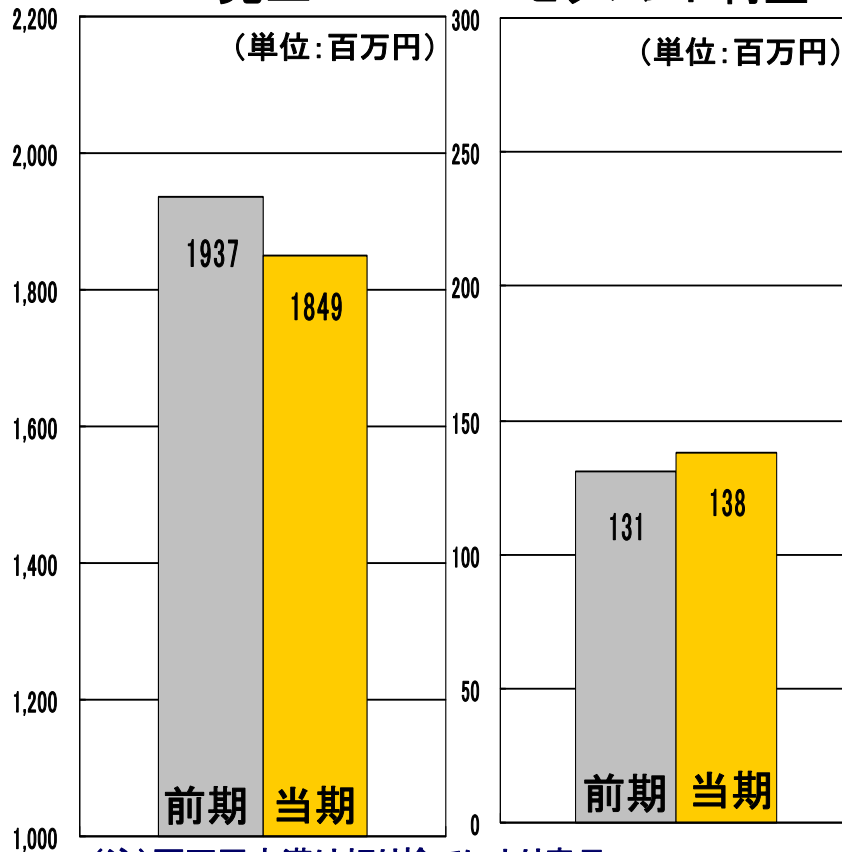
1,849 百万円 前期比 $\Delta 88$

セグメント利益

138 百万円 前期比 6

売上

セグメント利益



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

<売上>

成田 $\Delta 50$ 更新・修繕作業の減
 中部 $\Delta 34$ 基本契約の減
 関西 $\Delta 19$ 基本契約の減
 更新・修繕作業の減

<費用>

・労務費・委託役務費の減 $\Delta 59$
 ・販売外注・材料費の減 $\Delta 30$

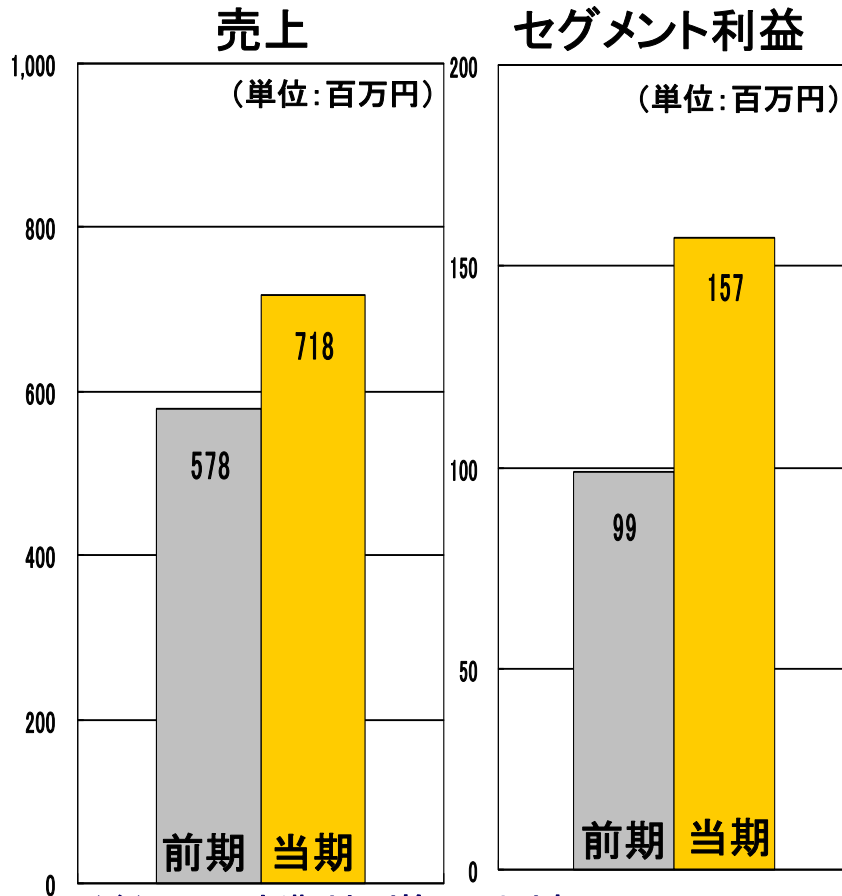
③付帯事業 収支

売上

718 百万円 前期比 139

セグメント利益

157 百万円 前期比 58



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

<売上>

本社 +142 フードカートの販売増

<費用>

・販売外注・材料費の増 +86

営業利益／経常利益／四半期純利益

営業利益

243 百万円 前期比 7

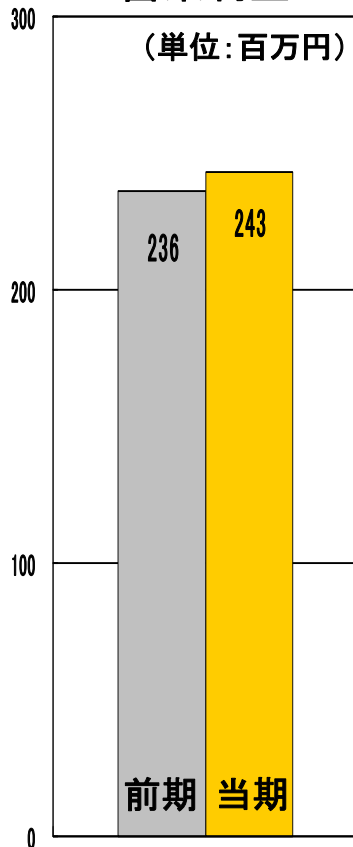
経常利益

216 百万円 前期比 5

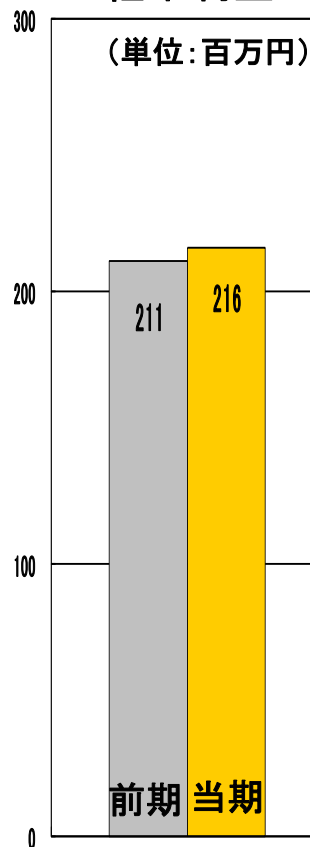
四半期純利益

92 百万円 前期比 $\Delta 5$

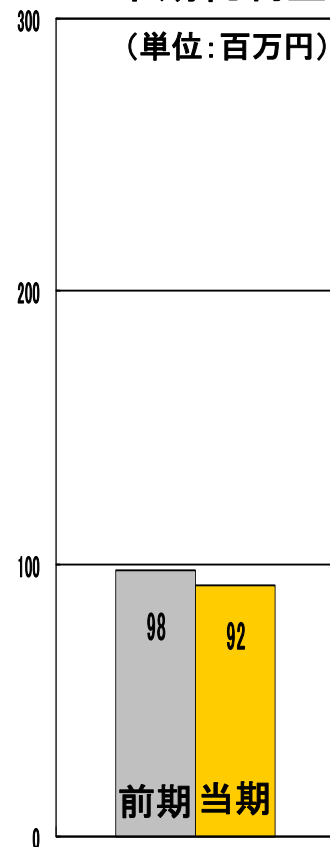
営業利益



経常利益



四半期純利益



<営業利益の増減要因>

| | |
|------------------|-------------|
| 売上総利益の減 | $\Delta 34$ |
| 販売費及び一般管理費の減 | $\Delta 41$ |
| 労務費・消耗品費・社外役務費 等 | |

<経常利益の増減要因>

| | |
|---------------|----|
| 営業利益の増 | +7 |
| 営業外費用(支払利息)の増 | +1 |

<四半期純利益の増減要因>

| | |
|--------|------------|
| 経常利益の増 | +5 |
| 特別損失の増 | +18 |
| 法人税等の減 | $\Delta 7$ |

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

当社事業の概要

第2四半期業績報告（連結）

業績の概要

通期業績見通し

2011～2013年度 中期事業計画

2011年3月期 期初予算策定時のポイント

【ポイント】

(動力)

プラス要因

- ・成田容量拡大(2010年3月B滑走路延伸)
※20万回→22万回
- ・羽田容量拡大(2010年10月国際線オープン)
※30万回→33万回
- ・B787,A380就航

マイナス要因

- ・JAL更生計画(路線縮小・小型化)
- ・減価償却費負担増

(整備)

マイナス要因

- ・JAL更生計画(施設統廃合)
- ・顧客経費節減施策



マイナス要因 > プラス要因

前期比 減収減益を見込む

(単位:百万円)

| | 前期実績 | 期初予算 |
|-------|--------|--------|
| 売上高 | 11,459 | 11,253 |
| 営業利益 | 687 | 568 |
| 経常利益 | 630 | 501 |
| 当期純利益 | 382 | 252 |

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2011年3月期 修正開示

【11月25日に通期業績予想の修正を発表】

【ポイント】

①売上高：下記要因により、減収を見込む

〔減収要因〕

動力 ・10月に供用開始した羽田新国際線は計画通り順調に推移するが、期初予想を上回る航空機の小型化や、成田でのJAL国際線の減便、他方成田の就航便数の伸び悩みの継続
 ・ボーイング787の就航遅れ(A380は増収に寄与)

整備 ・顧客企業の経費節減施策による、施設・設備類の保守管理基本契約の改定や、更新・修繕作業減少の継続
 ・JAL社の施設統廃合による、受託業務減少の影響

〔増収要因〕

・フードカート販売の増

②営業・経常利益：原材料費や労務費などの営業費用の削減に努めるものの、減益を見込む

③当期純利益：資産除去債務に関する税金費用が当初見込みより増加したことにより、減収を見込む

(単位：百万円)

| | 期初予算 | 修正値 |
|-------|--------|--------|
| 売上高 | 11,253 | 10,775 |
| 営業利益 | 568 | 468 |
| 経常利益 | 501 | 405 |
| 当期純利益 | 252 | 175 |

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

当社事業の概要

第2四半期業績報告(連結)

業績の概要

通期業績見通し

2011～2013年度 中期事業計画

中期事業計画策定時のポイント

グローバル化、「観光立国」

航空需要の増加

成田・羽田の発着枠拡大
LCCターミナル

空港容量の拡大

航空業界を取り巻く環境

- 規制緩和による競争・淘汰
- 変化は現在進行形・先行き不透明
- 羽田空港容量拡大に伴う他空港への影響

当面、厳しい経営環境は続く！

筋肉質・リスク耐性のある企業体質とし、航空業界の成長を確実に取り込める企業となるための足場を固める期間

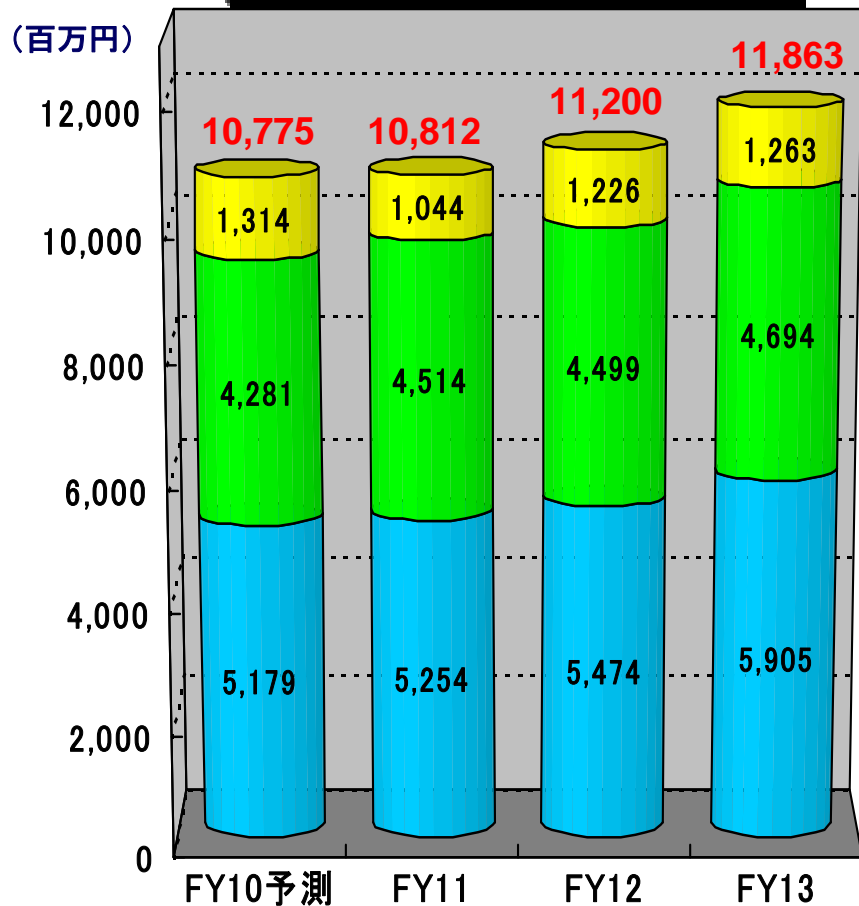
中期事業計画の基本方針

基本方針

- (1) 当社の主力事業である動力事業および整備事業の収支改善を図りつつ、今後も安定的な経営基盤として確立するために再構築を行う。
- (2) 今後の航空需要拡大を見据え、設備・人材への必要な投資を行い、コスト競争力の強化、技術力の向上を図り、安定的な成長ができる筋肉質の企業体質を作る。
- (3) 顧客のニーズを的確に掴み、顧客満足度を高めることで、顧客とともに成長できる事業運営を行う。
- (4) 経営環境の変化に対して、従来の発想に捉われることなく臨機応変に対応し、積極的にビジネスチャンスをつかえ飛躍を図る。

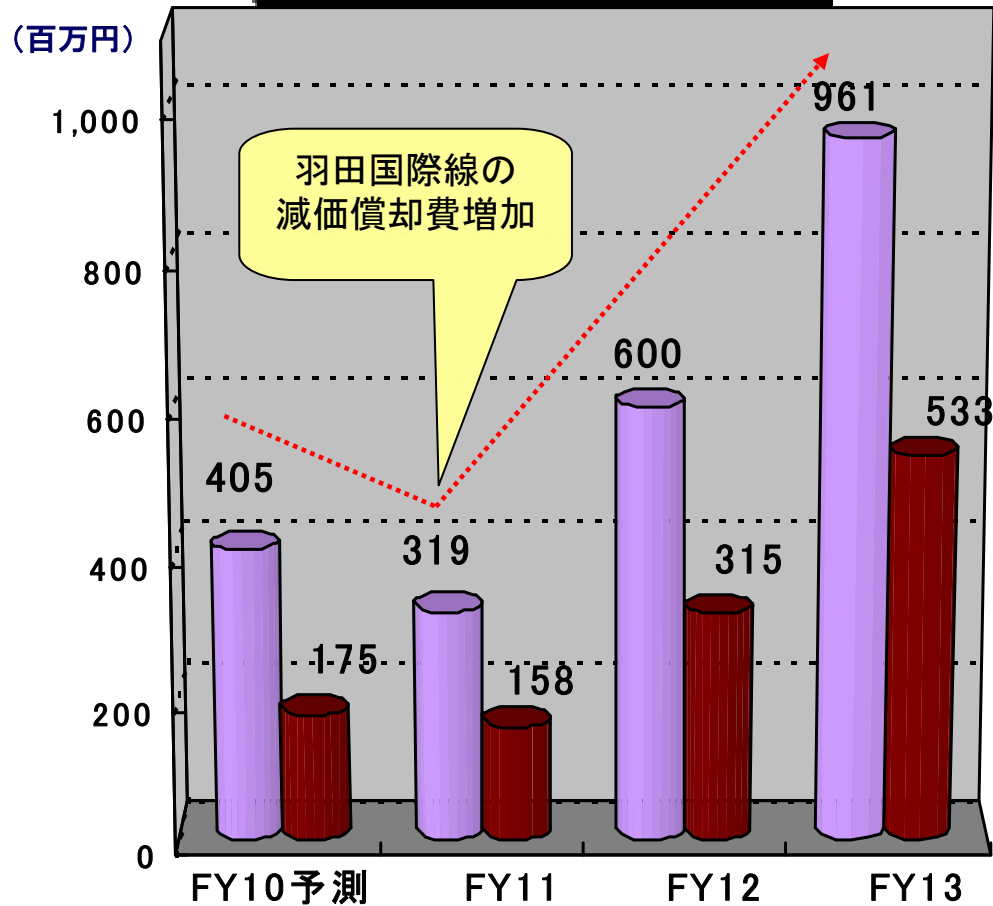
収支計画

売上高



■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業

利益



■ 経常利益 ■ 当期純利益

動力事業

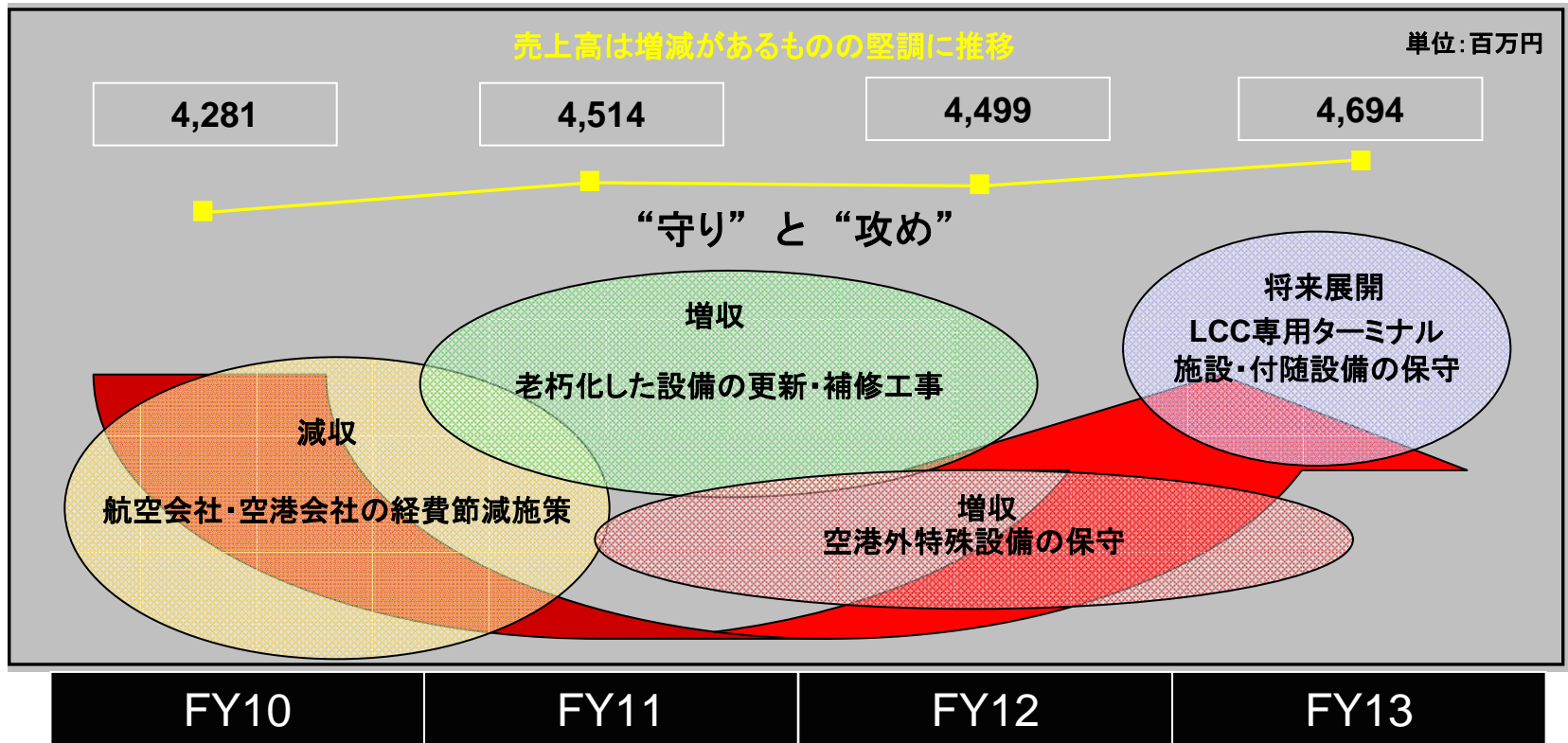
| 事業環境 | 空港の容量拡大 | <p>空港機能拡充による段階的な発着枠の拡大</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>FY09</th> <th>FY10</th> <th>FY11</th> <th>FY12</th> <th>FY13</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成田空港</td> <td>20万回</td> <td>22万回</td> <td>—</td> <td>27万回(目標)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>羽田空港</td> <td>30万回</td> <td>33万回</td> <td>35万回</td> <td>—</td> <td>41万回</td> </tr> </tbody> </table> | | FY09 | FY10 | FY11 | FY12 | FY13 | 成田空港 | 20万回 | 22万回 | — | 27万回(目標) | — | 羽田空港 | 30万回 | 33万回 | 35万回 | — | 41万回 |
|---------|---|--|------|------|----------|------|------|------|------|------|------|---|----------|---|------|------|------|------|---|------|
| | | FY09 | FY10 | FY11 | FY12 | FY13 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成田空港 | 20万回 | 22万回 | — | 27万回(目標) | — | | | | | | | | | | | | | | |
| | 羽田空港 | 30万回 | 33万回 | 35万回 | — | 41万回 | | | | | | | | | | | | | | |
| LCCの台頭 | <p>LCC(格安航空会社)型ビジネスモデルの領域拡大</p> <p>成長が予想される分野であり、ニーズを捉えた的確な対応</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次世代航空機 | <p>ボーイング787等への対応による投資効果</p> <p>能力増強した動力供給設備の利用による収益拡大</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境意識の向上 | <p>国土交通省が推進するエコエアポート施策</p> <p>動力供給設備の使用率・使用時間の向上、使用によるコスト優位性</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---------|---------|---|
| 課題・取り組み | 路線休止・減便 | <ul style="list-style-type: none"> ◆リスク耐性の強い企業体質へ ◆低供給率の外国社を中心とした販売促進 |
| | 航空機の小型化 | <ul style="list-style-type: none"> ◆料金体系の再構築 ◆小型機に適した設備の開発 |
| | 設備投資 | <ul style="list-style-type: none"> ◆成田・羽田空港の継続的な容量拡大および新型航空機に対応した設備投資 ◆「円高」に伴う海外機材の活用 |

| | | | | | |
|-----|----------|-------|-------|-------|------|
| 売上高 | (単位:百万円) | FY10 | FY11 | FY12 | FY13 |
| | 5,179 | 5,254 | 5,474 | 5,905 | |

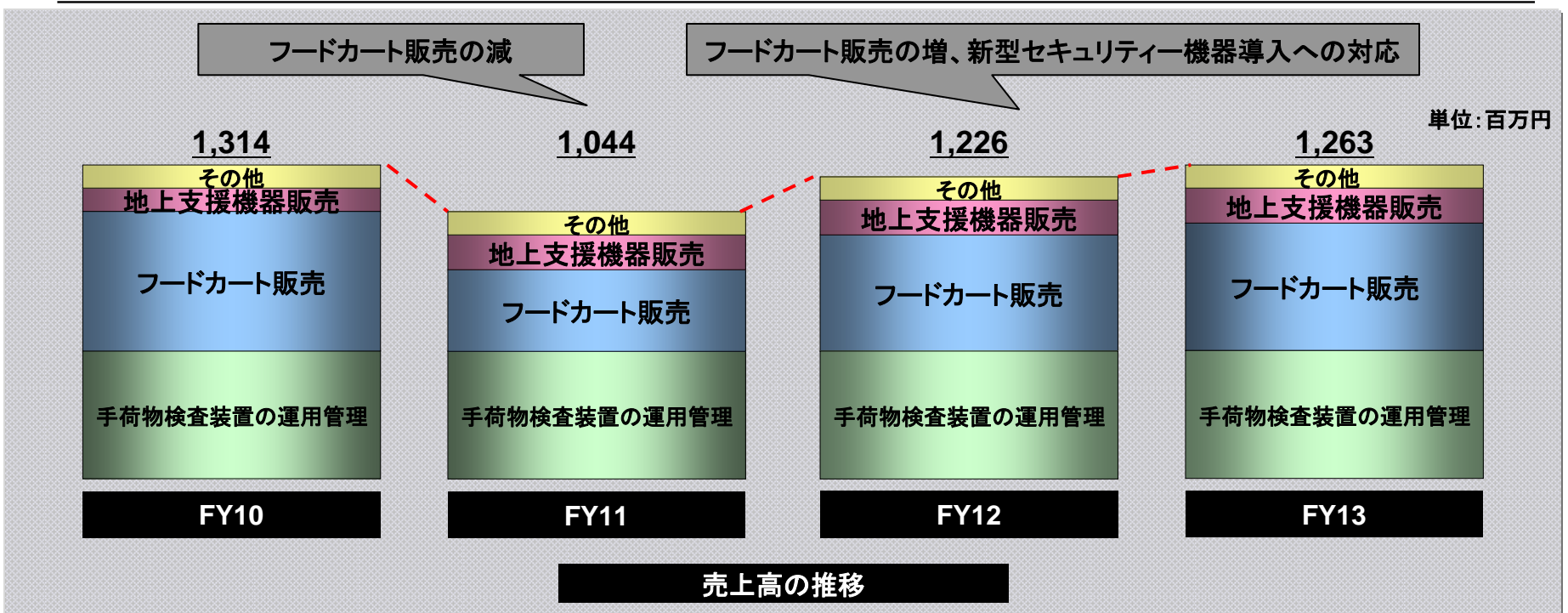
整備事業

売上高と事業環境



- 業務内容の見直し、弾力的な人材運用、コスト削減により競争力を強化し、同業他社との差別化を図る
- 当社の持つメンテナンスのノウハウと24時間運営体制の強みを生かした提案型営業を展開し、周辺業務を取り込む等の業容拡大を図る。
- 空港外特殊設備保守の営業を強化し、受託拡大を図る
- 高付加価値の業務を受託するための技術習得を継続し、積極的な人材育成を図る

付帯事業



今後の取り組み

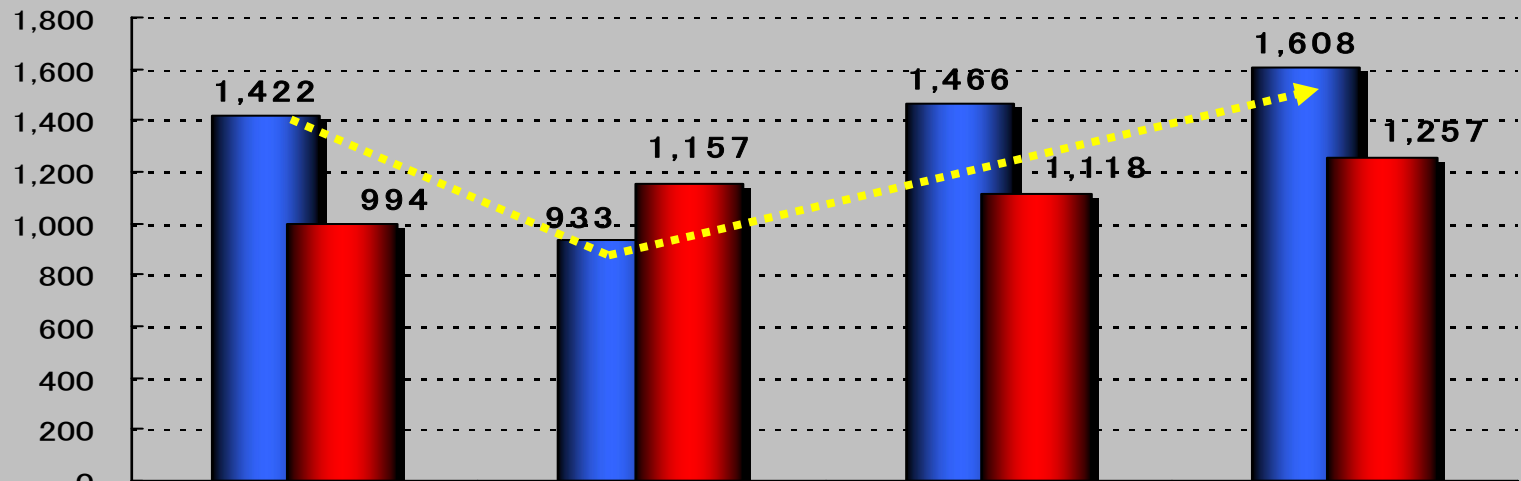
- フードカート事業は、顧客の要望を捉えた新商品の開発を進めながら、買替需要案件に着実に 対応しつつ、医療法人グループへの営業を強化し新規顧客の拡大を図る
- 各空港での新型セキュリティー機器等の導入に伴う設置工事・保守の受託拡大を図る
- 航空機地上支援機器販売については、種類の絞込みによる効率化を図る

設備投資計画

■ 設備投資額
■ 減価償却費

設備投資と減価償却の推移

(単位:百万円)

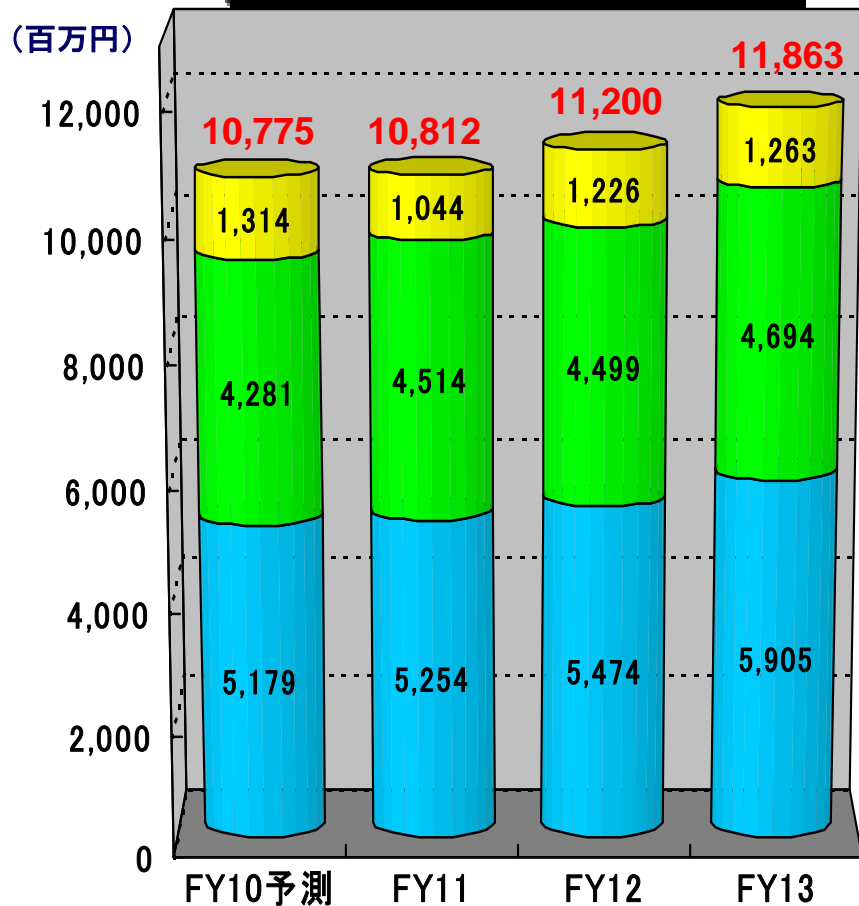


| | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| ■ 設備投資額 | 1,422 | 933 | 1,466 | 1,608 |
| ■ 減価償却費 | 994 | 1,157 | 1,118 | 1,257 |
| 資金調達額 | 1,000 | 300 | 600 | 600 |

- 成田・羽田空港の容量拡大に伴う設備投資
- 新型航空機の就航に伴う設備更新
- 既存の老朽化機材の設備更新

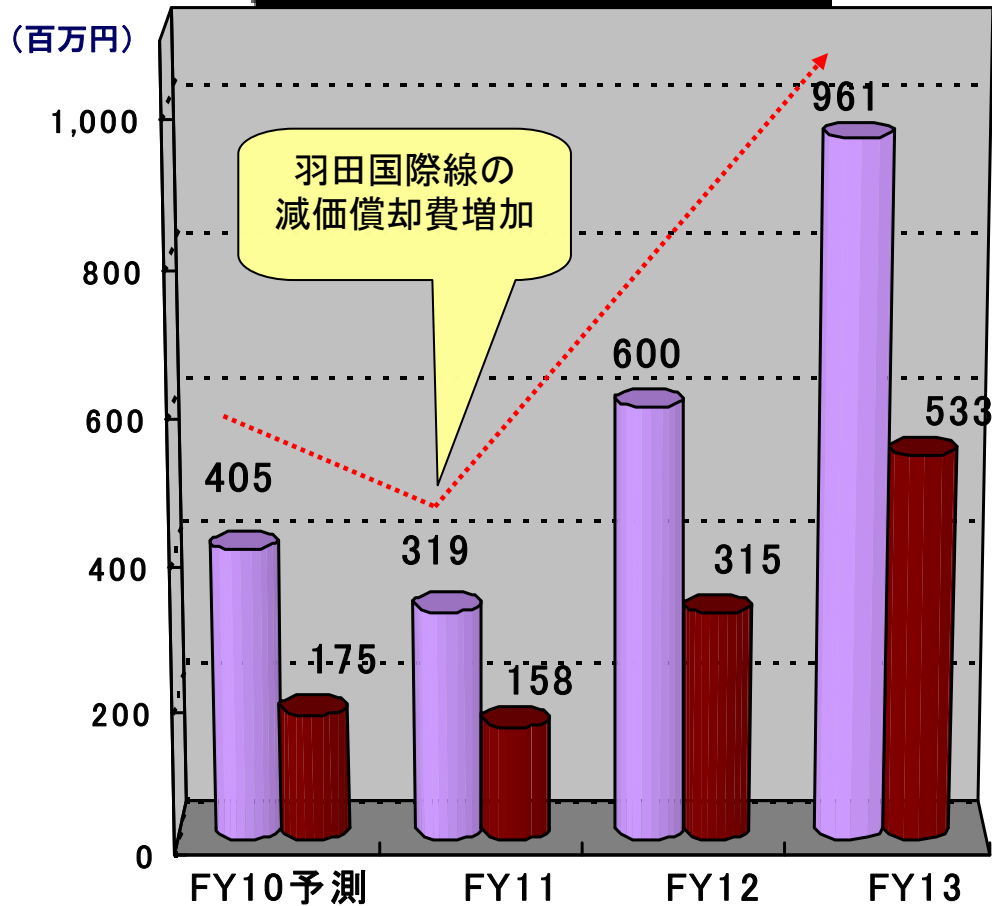
収支計画

売上高



■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業

利益



■ 経常利益 ■ 当期純利益

- 本日は、弊社決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。
- 本日配布しました資料に記載されている将来の業績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることにご留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ



電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL:<http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)